

(仮訳)

プレス・リリース

2021年11月1日

金融安定理事会は、ノンバンク金融仲介の強靭性を向上させるための作業について G20 ヘアアップデート

金融安定理事会 (FSB) は本日、ノンバンク金融仲介 (NBF I) の強靭性を向上させるための作業に関する過去 1 年間の進捗状況と、今後計画されている作業に関する報告書を発表した。報告書は先週末の G20 首脳会合に先立って、G20 首脳に届けられた。

NBF I は過去 10 年間で大幅に成長し、世界の金融資産のほぼ半分に達しており、より多様化している。しかし、2020 年 3 月の市場の混乱は、経済へのより安定した資金供給を確保し、中央銀行の異例の介入の必要性を減らすために、このセクターの強靭性を向上させる必要性を強調した。FSB の NBF I 関連作業プログラムには、この混乱から得られた教訓を踏まえた分析や政策策定作業が含まれている。

本報告書は、NBF I のエコシステムを概観するとともに、ストレスのかかった市場環境下における流動性の利用可能性とその効果的な仲介について分析するための枠組みを提供している。実際、市場参加者がリスクを効率的に管理し、ポートフォリオを調整する際に市場の混乱を最小限に抑える能力は、NBF I エコシステムの機能と強靭性を決定する重要な要素である。こうした混乱は、流動性の需要と供給の間に大きな不均衡がある場合に、より起こりやすくなる。したがって、NBF I の強靭性は、NBF I エコシステム内の様々なタイプの主体の行動に依存するとともに、これらの主体を相互に、また金融システムの他の部分と結びつけるインフラや活動に依存する。

これまでの作業の主な焦点は、流動性不均衡の蓄積とその増大に寄与したと考えられる特定の NBF I セクターの脆弱性を評価し、それに対処することであった。これには、マネー・マーケット・ファンド (MMF) の強靭性向上のための政策策定作業、オープン・エンド型ファンドにおける流動性リスクとその管理の評価作業、ストレス時の主要な国債・社債市場における流動性の構造と決定要因の検証

作業、清算集中及び非清算集中デリバティブ・証券市場における証拠金取引の枠組みとダイナミクスの検証、米ドルのクロスボーダー資金調達における脆弱性と新興市場経済における脆弱性との相互関係の評価が含まれる。NBFI の進捗報告書は、これらすべての分野におけるこれまでの主要な調査結果と次のステップを示している。

これらの調査結果に基づき、FSB の今後の作業は、NBFI に対するシステミックなアプローチを策定することを目的としている。これには、NBFI の継続的なモニタリングを強化するための、NBFI のシステミックリスクに対する理解深耕や、必要に応じて、こうしたリスクに対処するための政策を策定することが含まれる。政策策定作業の焦点は、2020 年 3 月の市場の混乱から得られた教訓に基づき、現在の政策ツールキットがシステム全体の視点から適切かつ効果的であることを確実にすることにある。

この報告書は、2022 年以降の NBFI に関する FSB の作業プログラムを詳述している。